

こぶし教室での指導開始と 指導終了までの流れ

①保護者や学級担任等の気付きから面談等を行い、こぶし教室での支援の必要性を検討する。



②在籍校の校内委員会で協議・検討する。



③発達検査を受ける。すでに受けている場合は、その資料を学校に提出する。



④生徒や保護者と在籍校担任や巡回指導教員との面談を実施する。合意形成を図り、入室の申請を行う。



⑤市の通級判定委員会が、「適」「可」「否」のいずれかの判定をする。



⑥在籍校は保護者へ結果を通知する。



⑦定期的に指導目標が達成したかを評価する。原則として指導期間は1年間である。

【年間予定】

〈 1学期 〉

- こぶし教室保護者会
- 連携型個別指導計画作成と指導内容等に関する面談
- 【研修会】保護者と教員で学ぶ、高校通級と進路について

〈 2学期 〉

- 連携型個別指導計画前期評価
- 連携型個別指導計画後期作成
- 次年度継続希望確認面談

〈 3学期 〉

- 連携型個別指導計画後期評価
- 年度末面談

※予定は変更になることがあります。
その際はこぶし通信等でお知らせします。

武蔵野市 中学校
特別支援教室

こぶし教室

教室要覧



【拠点校 武蔵野市立第三中学校】

〒180-0002

武蔵野市吉祥寺東町

3-11-13

電話 0422-21-7522

(こぶし教室直通)

【教室の教育目標】

学校生活や社会生活に適応し、自立・協働・社会参画ができる生徒を育成する。

- 1 自己理解を深め、豊かな人間関係を築くことができる力、多様な価値観を認識できる力を育てる。
- 2 規則正しい生活習慣を確立し、自らの感情をコントロールできる力を育む。
- 3 自分に合った学習方法を学び、進んで学ぶ意欲を育てる。

【入室対象生徒】

- 通常の学級に在籍している生徒
- 知的障害がなく、自閉症、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害がある生徒
- 通常の学級での学習におおむね参加でき、一部、特別な指導を必要とする生徒

【教室概要】

拠点校:武蔵野市立第三中学校

教室名:こぶし教室

学級形態:特別支援教室

教職員:拠点校校長 竹山 正弘

拠点校副校長 酒井 義博

巡回指導教員 佐藤 鈴代(教室主任)

荻野 弥生

塩澤 優夏

特別支援教室専門員 青野 圭

【在籍生徒数】

	一中	二中	三中	四中	五中	六中	合計
1年	5	3	5	5	5	3	26
2年	5	6	3	4	3	6	27
3年	1	8	5	4	3	1	22
合計	11	17	13	13	11	12	75

【指導形態・指導内容】

- 対象生徒は、週に1、2時間程度、在籍中学校内に設置された特別支援教室で指導を受ける(生徒の特性によっては、時数が異なることがある)。
- 指導形態は、個別指導もしくは小集団活動である。1年生は原則として週に個別指導1時間、小集団活動1時間合計2時間の授業を受ける。

【指導内容】

学習指導要領に定められた自立活動を行う

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 人間関係の形成
- 4 環境の把握
- 5 身体の動き
- 6 コミュニケーション

【指導の基本方針】

生徒本人の意思を尊重し、巡回指導教員と在籍学級担任及び保護者の連携のもとで指導を行う。

- 適切な変わり方や対人関係の在り方を学び、他者と協力し行動する態度を育む。
- 生徒一人一人の能力や特性、多様性に配慮した指導を行い、自己肯定感を高めることができるように支援する。
- 自己の能力や適性に応じて主体的な進路選択ができるように支援する。
- 在籍学級担任や保護者、関係機関との連携を密にして、外部の専門家らの助言も活用しながら指導する。